

第七小学校

各学年1クラス + 特別支援学級2クラス 計8クラス

地域との交流（稲作）



30年以上続いている交流

特別支援学校との交流



教科担当制による体力の向上



○新体力テスト結果 全校児童の67%がA判定

新学習指導要領を見据えた図工の取組



○全国教育美術展 学校賞

新聞コンクールへの積極的な参加



○市内新聞コンクール 全クラス入賞

国語・算数の授業担当

(公開授業クラスのみ)



1 学年 国語・算数…担任

2 学年 国語…担任

算数…専科

3 学年 国語・算数…担任

4 学年 国語…担任

算数…専科

5 学年 国語…担任

算数…専科

6 学年 国語…4学年担任

算数…担任

1. 課題の明確化(実態把握)

前年度の校内研修からの課題や子どもの実態について分析

3. 重点課題

研修主題

4. 仮説(手立て)

2. 研修の目指す子どもの姿

検証

P 研修計画書

A 成果と課題の分析

実践的研究

C 検証

研修紀要作成

D 研究授業
(一人一研究授業)

仮説検証研修

1. 現状の把握

困り感や悩みを出し合い、学校が抱えている問題【教師の指導の状況、子どもの姿・意識等】をすべての教師が共有する

ア、イ、ウ、エ、オ、カ

2. 課題とその原因の分析

様々な視点【学習指導要領・群馬県教員育成指標・学校教育の指針参照】から現状の背景を分析する

ア、イ、ウ、エ、オ、カ

3. 目標(1年後の目指す子どもの姿)を立て、手立てを焦点化

研修計画はA4両面1枚で、ポイントを押しさえて簡略化

資質向上研修

教師のニーズを踏まえて(オ、カ)

授業改善研修

共通する課題に絞り、具体的な手立てを決める(ア、イ、エ)(ウ)

すべての教師が日々の授業をとおりして課題を分析し、手立てを修正

日常的な研修
授業実践
PDCA
サイクル

チームによる
授業実践

実践のまとめ

紀要作成負担減

OJT、メンター制の導入により効果的に指導力向上

指導力向上研修

指導力向上研修 (館林七小)

学習指導要領 学校教育目標 目指す子どもの姿・教師の姿 校長の経営方針

1 現状の把握 (教師の指導の状況、子どもの姿・意識等)

ア,対話的で深い学びになっていない。

2 課題とその原因の分析(現状の背景)

ア,学ぶ必要性のある「めあて」の設定ができていない。など

3. 目標

(目的意識をもち、対話的で深い学びのできる児童の育成)

手立て (「はばたく群馬の指導プラン」を活用した授業づくり)

はばプラ・学校教育の指針・
群馬県教員育成指標
(実践の手引きより)

手立てを修正

- ①読むより見て学ぶ
 - ②ベテランからのアドバイス
 - ③チームでレベルアップ
- +
- チェックリスト25の活用

管理職や学カコーディネーターによる参観と助言

授業実践
PDCA
サイクル

チームによる授業実践

師範授業、参観授業を計画的
に実施(参観→研究会)

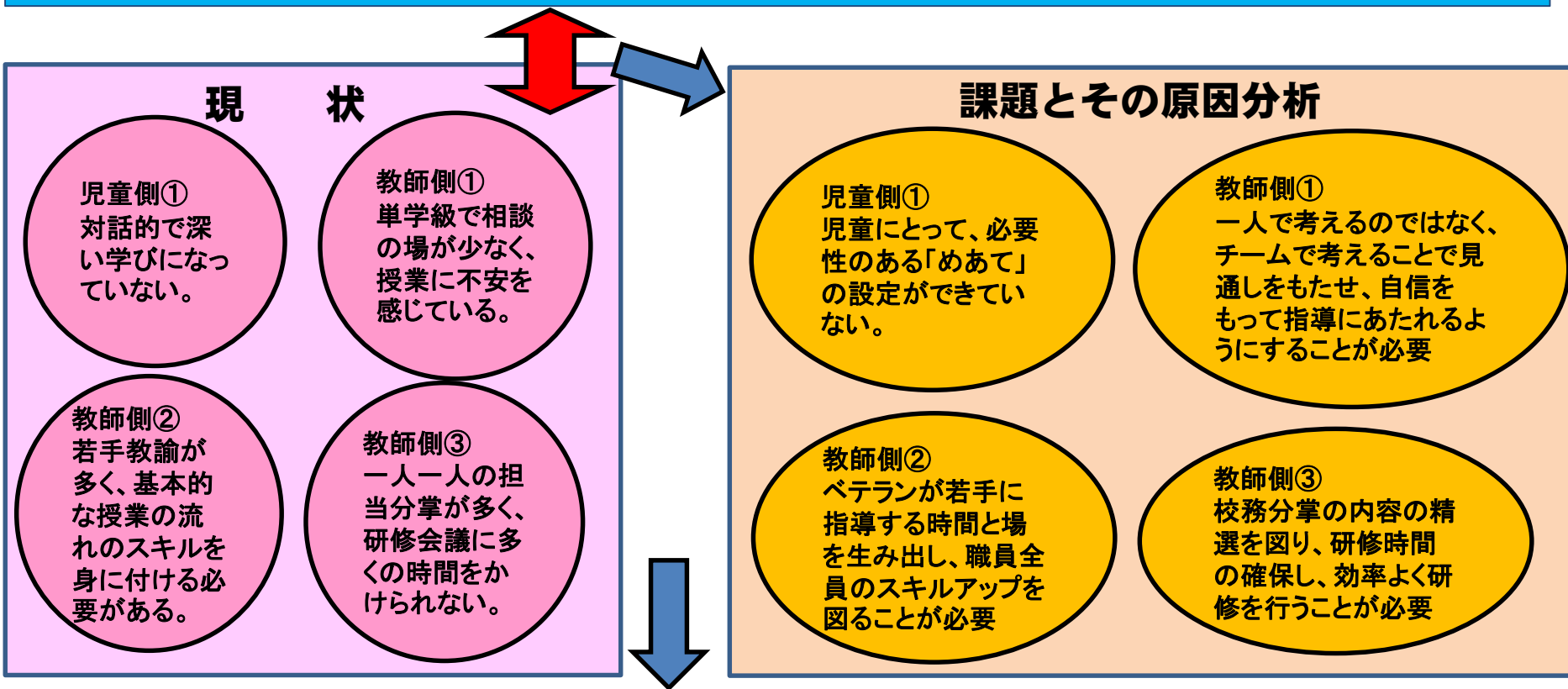
はばプラ・学校教育の指針・
群馬県教員育成指標
(実践集・実践の手引きより)

見えてきた成果・課題

一人一実践まとめ(A4、1枚)の報告書

1 研修主題、手立て設定までの流れ

第七小学校 学校教育目標:「進んで学び、心豊かで、心身ともにたくましい児童の育成」



研修主題「目的意識をもち、対話的で深い学びのできる児童の育成」

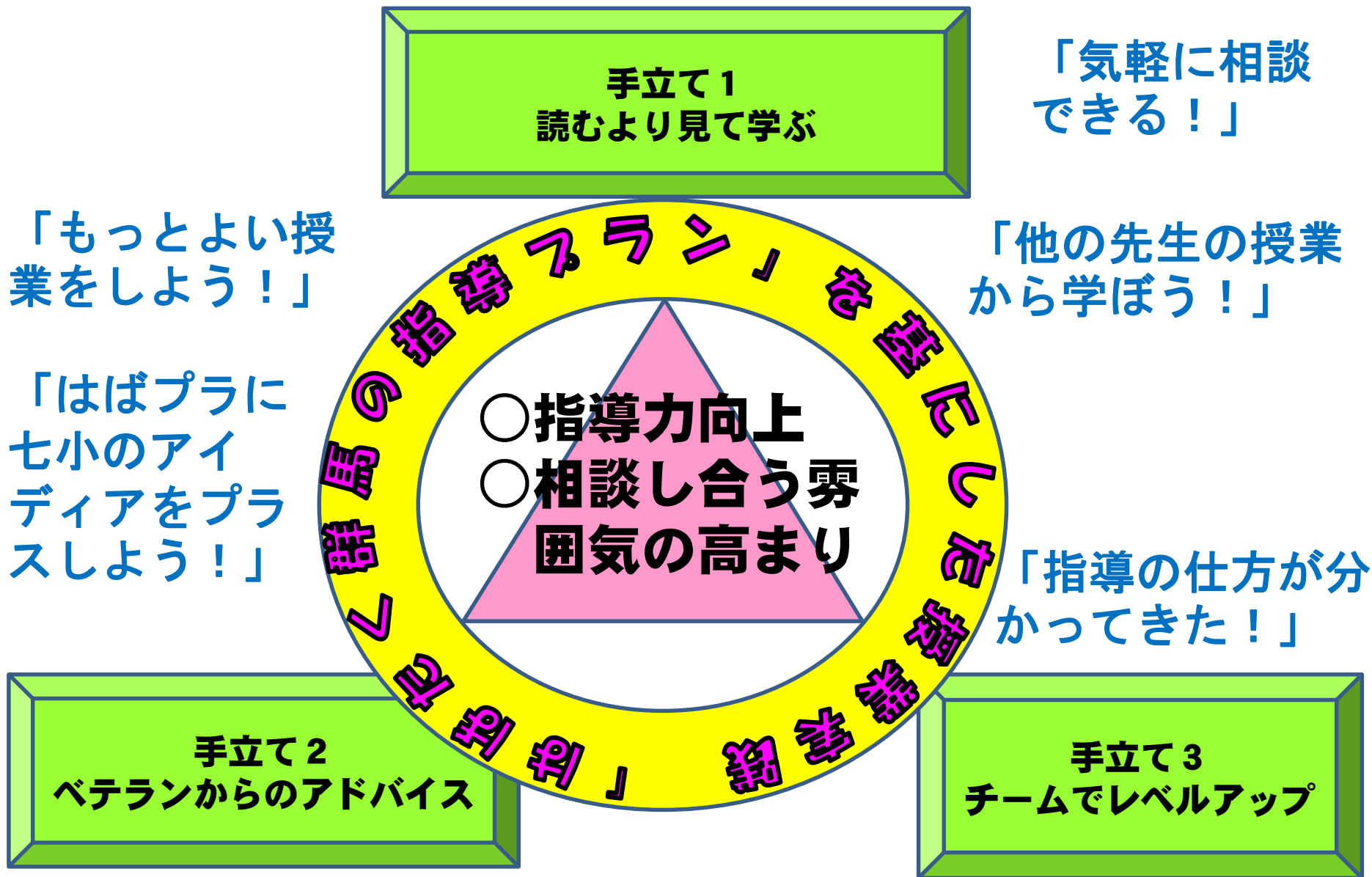
「はばたく群馬の指導プラン」を基に、教師全体の指導力を高めていく研修

手立て1
読むより見て学ぶ

手立て2
ベテランからのアドバイス

手立て3
チームでレベルアップ

2 具体的な手立て→目指す教員の姿(意識)



3 実践内容

手立て1 読むより見て学ぶ ～授業の進め方の共通理解～

4月の実践

- ① 「はばたく群馬の指導プラン」を基にした「授業の進め方」についての検討、説明会の開催
- ② 学力向上コーディネータによる公開授業
- ③ ビデオを使用した授業研究会→「授業の進め方」の修正→それぞれの教師が実践

算数の授業の進め方について	算数の授業の進め方について
① 授業の進め方	① 算数の授業の進め方について
② 算数の授業の進め方について	② 算数の授業の進め方について
③ 算数の授業の進め方について	③ 算数の授業の進め方について
④ 算数の授業の進め方について	④ 算数の授業の進め方について
⑤ 算数の授業の進め方について	⑤ 算数の授業の進め方について
⑥ 算数の授業の進め方について	⑥ 算数の授業の進め方について
⑦ 算数の授業の進め方について	⑦ 算数の授業の進め方について
⑧ 算数の授業の進め方について	⑧ 算数の授業の進め方について
⑨ 算数の授業の進め方について	⑨ 算数の授業の進め方について
⑩ 算数の授業の進め方について	⑩ 算数の授業の進め方について



① 「算数の授業の進め方」の共通理解

② 公開授業

③ ビデオを使用した授業研究会

手立て2

ベテランからのアドバイス ～学期3回の公開授業と授業参観～

- ① 「授業構想シート」を活用した公開授業
- ② 授業の振り返り
- ③ 全体への報告→実践内容を次の授業実践に生かす
- ④ 日常的な授業参観

下位群のつまづきに対して、支援が十分にできなかったと思います。【若手】

算数授業構想シート 9月18日(火)4時間目 2年 「ひの算の仕方」 4人1組 授業者 若手

<p>おさらい 3位数-2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p>	<p>目標 ① ひの算の仕方を理解し、100の位から10の位まで、繰り下げて計算できる。 ② 繰り下げる理由を説明できる。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>
<p>身に付けさせたいこと ・かえ棒の操作、くり下げの理解を基にしながら筆算する技能。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>
<p>表れてほしい児童の姿(姿) 十の位でひけるときは、百の位から1くり下げがよい。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>	<p>100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。 100の位は100、10の位は10、1の位は1。</p>

授業の流れ

1 学習課題を把握する 学習課題 メダルを2人で12にわける。53にわけるのは100の位から10の位まで、繰り下げて計算する。	2 基礎知識を定着させる かえ棒を使うグループメダルを100の位と10の位に分けて計算できるようにする。	3 考えを発表し、系統で比較・説明する かえ棒の操作が筆算と関係があることを説明する。	4 学習のまとめをする 今日のめあてはどの程度達成できたか。
---	---	--	-----------------------------------



今日のめあてはどの程度達成できた？
【ベテラン】

校内研修 実践授業のまとめ 日30.10.17

10/12(金) 梅田先生(若手)の授業
成果(今後の実践に生かせる点)

- (1) 前時に学習した「9+4」計算の仕方の説明。
 - ① 10のまとまりをつくる
 - ② 9は、あと1で10
 - ③ 4を1と3にわける
 - ④ 9に1をたして10
 - ⑤ 10と3で13
 既習事項を捉え物にして活用し、本時の学習「8+9の計算」に生かしていた。
- (2) ペア同士で考え方を伝え合う活動を取り入れた。一問を定めて説明する力の育成
- (3) 9に分ける方法と、8に分ける方法と、1と7を使って思いつきながら、1筆を取り換えた。
- (4) 大切なことなど、クラス全員で報告をすることで、授業への集中、学習内容の理解につながっていく。

課題

- 問題文を読んだが、課題(式の8+9)を提示する。
→ 「10の位のまとまり」の概念
- プログラムを用いて考え方を指導する。図を使って考える活動を意識して取り入れる。
→ 具体的な操作、視覚に訴える。
- 「本能的」なことば「10にちがいかず、10のまとまりをつくる」の理解が不十分な児童がいた。またまたある。具体的な数で説明することが必要であった。
→ 1枚とめごとに、教師、デジタルの提示

10/16(水) 川崎先生(ベテラン)の授業
成果(今後の実践に生かせる点)

- (1) 課題を把握する時間、日常生活で使っている思いつきの言葉(「10に、取れた」など)を紹介し、伝えたいことを正確に伝えることや、主語、述語をしっかりと書き添えなければならないことなどに意識を向けさせることになり、学習に対する興味を高めていた。
- (2) 主語、述語がつけられている文の一部を絵入りの掲示物で提示し、
- (3) ペア同士で書いた文を見合う活動を取り入れた。一主語、述語に眼を引かせることで、互いに確認できた。

※ 授業の終わりに、主語、述語に関する問題を出し、昨日の学習を振り返っていた。

① はばプラ
「授業構想シート」の活用

② 授業の振り返り

③ 全体への報告

手立て3

チームで授業レベルアップ ～学期1回のブロック授業の実施～

- ① 「授業構想シート」の活用、「本時の展開」のみの指導案
- ② 全教員を2ブロックに分け、授業内容の検討→実践授業
→授業の振り返り→全体への報告→次の授業実践に生かす

「めあて」の言葉の設定が難しいです。【若手】



明日、私の算数の時間導入を見に来られる？
工夫してみるよ？【ベテラン】

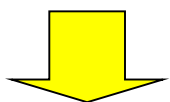
この場面において、先生がまとめすぎたと思う。もっと、子どもの言葉が拾えるとよかった。【ベテラン】



確かに時間がなかったので、急ぎすぎた気がします。【若手】

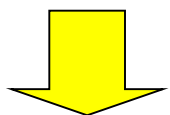
国語 単元の作り方

①身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
(学習指導要領・児童の実態・教材の特徴など)



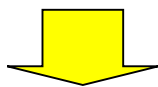
※ 指導事項配列表の活用

②「最適な言語活動」の設定
「身に付けさせたい資質・能力」が達成できる言語活動

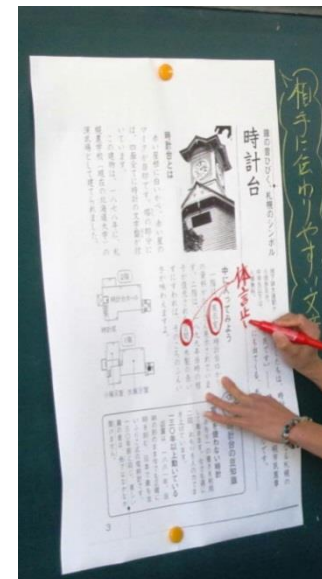


③単元構想

- ・ 教師の教材観
- ・ 各学年の発達段階
- ・ 児童の実態
- ・ 各指導過程での工夫



④指導案・実践



国語の授業構想シート

＜研修を進めていく中で…＞

課題、手立て(学習活動)、身に付けさせたいことを分かりやすく明記
(本時において、「何を」「どのように」身に付けさせたいのかのイメージがもてるようなレベルの表現)

学習指導要領の解説の文言を参考に
既習事項を活用する力を明記

児童の表現レベルで

構造的な板書(児童のつぶやき・ま
とめに必要なキーワードを盛り込む)

授業の流れ (国語3、算数4)

＜上段＞

- ・児童の活動
- ・主な児童の反応
(期待する反応を中心に)

・(下段)
授業の流れに関する支援

教師
児童の言葉活動 - 自分なりの答えをもちかへす。

算数 単位時間の授業展開の確立

○「算数の授業の進め方」

- ・ まとめを意識したためあての設定
→児童の気づき、発言を生かして
- ・ 結果の見通し
方法の見通し（既習事項の活用）
- ・ 個別追究→個別支援 既習事項の確認
指名計画 ペア活動
- ・ 全体共有→まとめに関わる大事な考え方を板書でちりばめておく
- ・ まとめ→自分の言葉で
- ・ 適応問題
- ・ 学習感想→学んだことの整理（一般化）
よいと思った考え方
次に生かしていきたいこと

第1小 算数の授業の進め方について

「はじめて算数の授業プラン」実践冊子108 ページ

学習の目標	授業上の留意点
<p>① 問題を読み取る。</p> <p>② 既習内容と関連づけて理解するために、学習までの学習状況と関連づけて（得意な学習方法など）を自分の言葉で、児童が説明できるように、説明しあわせることにより、めあてを確認していく。</p>	<p>※「まとめ」の意識を高めること</p> <p>(1) 問題文を読み、</p> <p>(2) わかっているところを自分の言葉で説明しあわせる。また、関連のある「既習」「既知」などのところを、声に出して説明。</p> <p>(3) 既習事項と関連づけて説明しあわせる。</p> <p>※「めあて」の意識を高めること</p> <p>※「めあて」の意識を高めること</p> <p>※「めあて」の意識を高めること</p>
<p>③ 見直しを促す。</p> <p>④ 個別に解答</p> <p>⑤ 全体共有</p> <p>⑥ 比較、説明する。</p>	<p>・ 方法や結果についても、見直しを促す</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。（ノート、教科書、海苔紙、黒板コーナーなどを活用する）</p> <p>・ 答えの異なるグループ同士で説明しあわせる。</p> <p>・ ペアやグループなどで互いに説明しあわせる機会を設ける。</p> <p>・ 全員の意見を取り入れ、まとめる。</p> <p>※「はじめて算数の授業プラン」実践冊子109 ページ</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p>
<p>⑦ 本時のまとめをする。児童から関心のある内容をまとめる。</p> <p>⑧ 学習感想に寄り添う。</p> <p>⑨ 今日の学習内容を記入する。</p>	<p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p> <p>・ 達成するために必要な学習事項、授業の実践にあわせて振り返る。</p>

めあての設定

交流活動の進め方

まとめ方

「チェックリスト25」の活用

教員の振り返り

4月

9月

12月

学習規律の
確立が課題

導入を工夫し、児童が課題解決にむけて話し合えるように...

学習感想やまとめを、自分のことばで表現させたい

No.	項目	評価
8	授業の開始、導入を準備している。	A
9	楽しくわかりやすい授業を展開し、児童が主体的に授業を行っている。	A
10	児童に対して、受容的・共感的に対応している。	A
11	導入では、魅力ある教材や資料の提示により、意欲を引き出す工夫をしている。	A
12	児童がめあてや学習課題をしっかりともてるようにしている。	A
13	児童に予想や仮説を立てさせ、課題解決への見通しをもてるようにしている。	B
14	児童が考えたり活動したりする時間を十分に確保している。	B
15	目的をもって机間指導をし、一人一人の学習状況を把握している。	B
16	児童が学び合う場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。	B
17	児童の多様な考えを引き出すような発問の工夫を行っている。	B
18	意図的な指名を行い、一人一人の考えを生かすようにしている。	B
19	ノートには、学習内容や自分の考えをわかりやすく整理するように指導している。	A
20	終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている。	A
21	学習したことを日常生活と関連づけるように工夫している。	B
22	学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。	B
23	ICT機器を効果的に活用し、楽しく学習に取り組めるようにしている。	B
24	ノートやワークシートにより、児童一人一人の理解の状況を把握している。	B
25	教師自身の授業評価を行い、次時の指導に役立てている。	A

2年目教員



第 週 (月 日 ~ 月 日)	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日	28 日	29 日	30 日	31 日
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											

ゴールまでの流れを意識した授業作りが定着した！

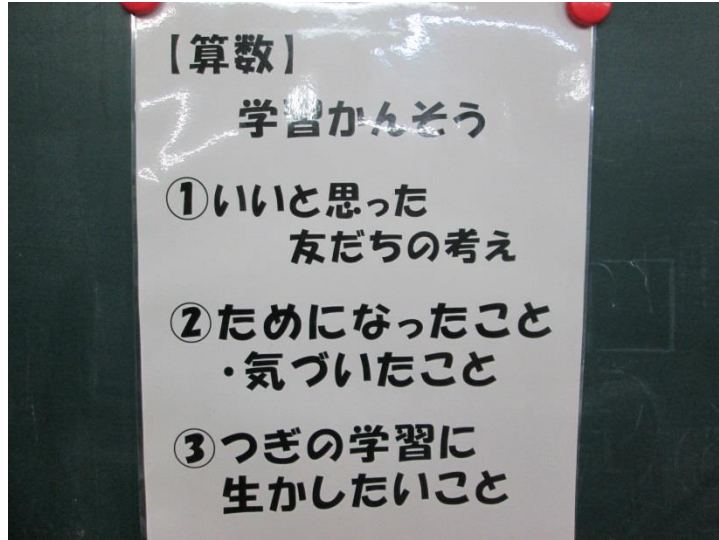
ベテラン教員

児童が、自分で考え、全体で練り上げていく力がついた！



さらに… 実践を通して気付いたこと

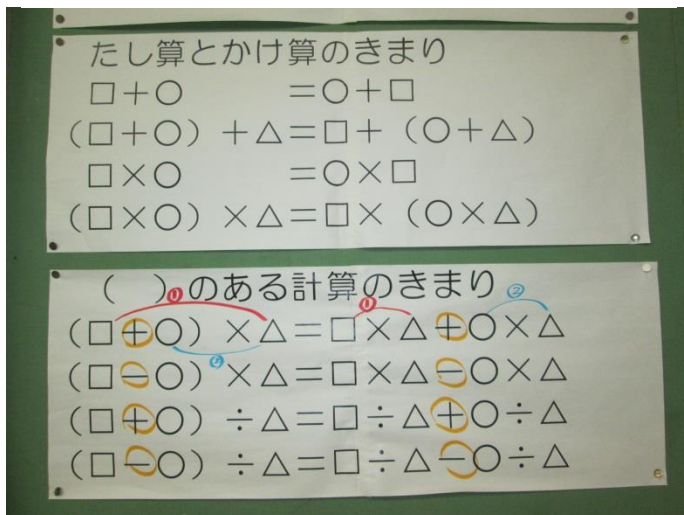
振り返り



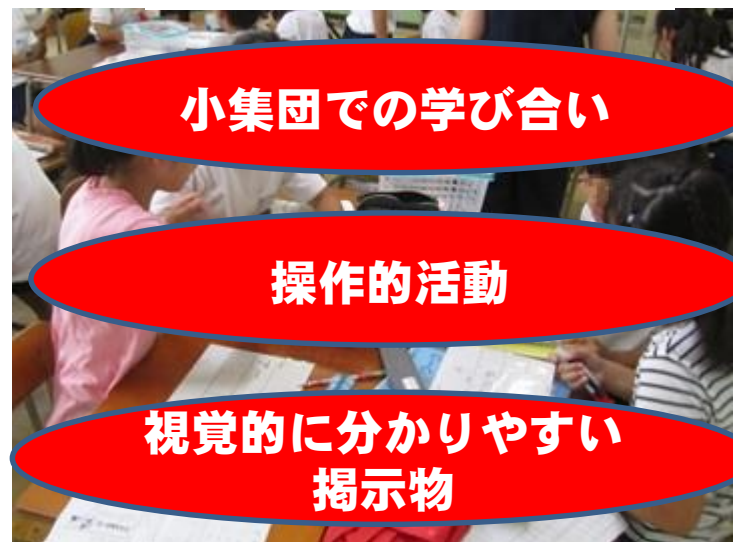
構造的な板書



既習事項の明確化



全員参加の授業



4 現段階の成果と課題

成 果

「はばプラ」の内容理解・実践

手立て1

手立て2

手立て3

◎4月当初に共通理解を図った結果、単元全体や単位時間の授業の進め方について、職員全体で同じイメージをもつことができ、5月以降の授業実践に生かすことができた。

◎「授業構想シート」を活用した学期3回の公開授業を行うことにより、「身に付けさせたい資質・能力」や「表れてほしい児童の意識」を意識しながら、授業の流れや板書の仕方を工夫する授業ができるようになってきた。また、授業研究会を行い、課題を見付けたり、その解決策を全体で共通理解することにより、若手が以前より自信をもって授業に取り組むことができている。

◎ブロック授業を行ったことにより、発問の仕方や授業の進め方だけでなく、教材観や学習のルールや学び方の指導なども学び合い、指導力の向上につなげることができた。

目的意識をもち、対話的で深い
学びのできる児童の育成

教師の指導力向上

課題

本年度中に具体的な案(実践レベル)を作成し、来年度に提案していく

- ・「見て学ぶ」の範囲を広げる
- ・学期3回の公開授業の在り方(現在、管理職、学力向上コーディネーターしか参観できないことが多い)
- ・より有効なブロック授業の在り方

- ・互いに授業を見て学ぶシステム(空き時間の活用)
- ・場面を絞った参観
- ・資料の事前配布 視点を明確にした授業検討

- ・児童の実態に合わせた授業展開の工夫
- ・教科、教材の本質をつかんだ教材解釈・授業展開